





# 2022年3月期 第2四半期決算 説明資料

2021年11月

上場市場：東証二部  
証券コード：9083



 2022年3月期 第2四半期決算概要

 2022年3月期 業績予想

 株主還元方針

 参考資料



## 2022年3月期 第2四半期決算概要

当社の主な事業エリアである兵庫県・大阪府では、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用で移動や活動の制限が求められたことにより、特に以下のセグメントで厳しい状況となった。

## 兵庫県における

- ・緊急事態宣言…4/25～6/20、8/20～9/30（計99日）
- ・まん延防止等重点措置…4/5～4/24、6/21～7/11、8/2～8/19（計59日）

自動車運送業 (乗合バス事業)	<ul style="list-style-type: none"><li>・路線バスは、深夜便や学校専用便の運休やダイヤの見直しを実施</li><li>・高速バスは、生活路線である淡路島線を除き、半数以上を運休</li></ul>
旅行貸切業	<ul style="list-style-type: none"><li>・自社ツアーは、緊急事態宣言期間中は全て中止</li><li>・貸切バスは、一般団体の自粛や学生団体の規模縮小などで稼働が低迷するも、7～8月は東京五輪での輸送やワクチン接種会場への送迎バス受注により大きく回復</li><li>・前年と同様訪日外国人向けツアーの実施が皆無</li></ul>
その他の事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・レジャーサービス業（飲食・高速道SA）が引き続き影響あり<ul style="list-style-type: none"><li>→緊急事態宣言期間を中心に臨時休業や酒類提供の禁止を伴う営業時間の短縮</li><li>→感染拡大防止のため座席数などの制限</li></ul></li></ul>

# 2022年3月期 第2四半期業績（連結）

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の継続的な発出・適用により、コロナ禍前の業績までの回復とはならなかったものの、前年の緊急事態宣言（4月・5月）の反動や、需要に合わせた供給体制や一般管理費の見直しといったコスト削減により、経常利益の赤字幅は前年から大きく改善。

(百万円)	実績	前年比		前々年比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	<b>16,934</b>	1,562	10.2%	△5,213	△23.5%
営業利益	△ <b>1,384</b>	1,729	-	△2,027	-
経常利益	△ <b>1,035</b>	1,671	-	△1,756	-
経常利益率	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ <b>1,057</b>	1,544	-	△1,472	-
ROA (経常利益/期中平均総資産)	-	-	-	-	-

# 2022年3月期 第2四半期業績 (セグメント別) 神姫バス株式会社

(百万円)	実績	前年比		前々年比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	<b>16,934</b>	<b>1,562</b>	<b>10.2%</b>	<b>△5,213</b>	<b>△23.5%</b>
自動車運送	6,995	614	9.6%	△2,732	△28.1%
車両物販・整備	3,113	230	8.0%	25	0.8%
※1業務受託	1,561	74	5.0%	△74	△4.5%
不動産	1,894	201	11.9%	△115	△5.7%
レジャーサービス	1,785	△102	△5.4%	△1,110	△38.3%
※2旅行貸切	846	484	133.9%	△1,204	△58.7%
その他	736	60	8.9%	△3	△0.4%
営業利益	<b>△1,384</b>	<b>1,729</b>	-	<b>△2,052</b>	-
自動車運送	△1,616	1,255	-	△1,191	-
車両物販・整備	137	△69	△33.6%	△94	△40.7%
※1業務受託	75	△18	△19.4%	△78	△50.8%
不動産	720	44	6.7%	△68	△8.7%
レジャーサービス	△135	73	-	△188	-
※2旅行貸切	△539	449	-	△422	-
その他	△10	11	-	△10	-
(セグメント間取引消去)	△14	△17	-	25	-

※1業務受託…索道業を当期より「自動車運送」から「業務受託」へセグメント変更している。(比較も変更後の数値を適用)

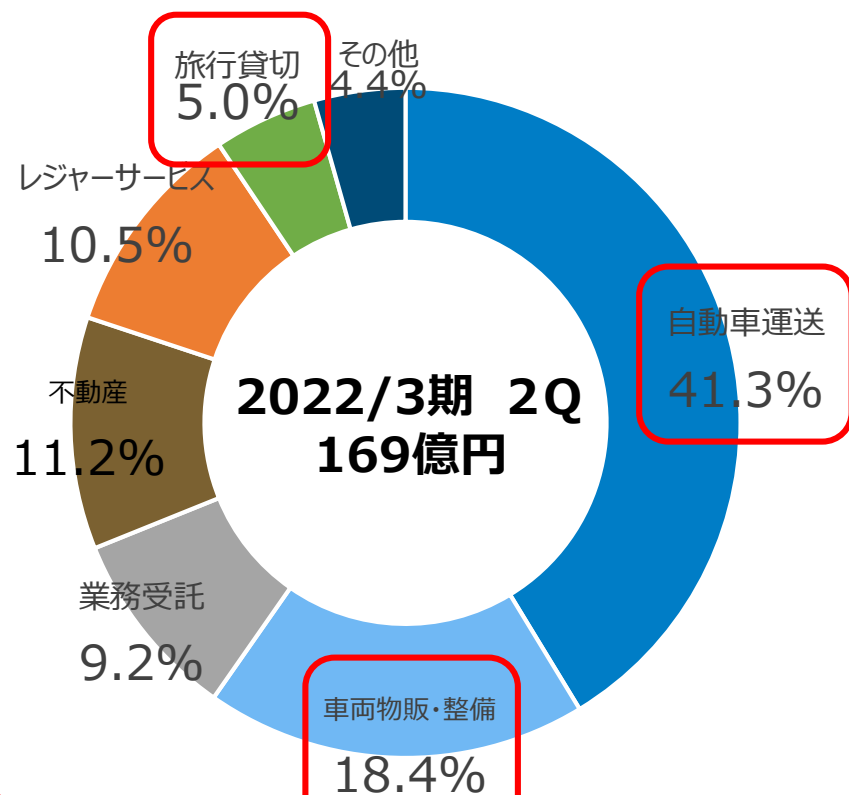
※2旅行貸切…「収益認識に関する会計基準」等を当期より適用しており、売上高及び売上原価において、従来の「純額表示」から「総額表示」に表示方法を変更している(比較は変更前の数値を適用)

# セグメント収益概要

自動車運送は最大のセグメント。車両物販・整備や旅行貸切を含めた自動車運送関連事業は売上高の65%を占める

一方、利益面での稼ぎ頭は不動産。コロナ禍においてもこの事業のみが黒字・増益となった。自動車運送関連では、自動車運送・旅行貸切の赤字は前年より大きく改善しているが、全社的な赤字の主因となる

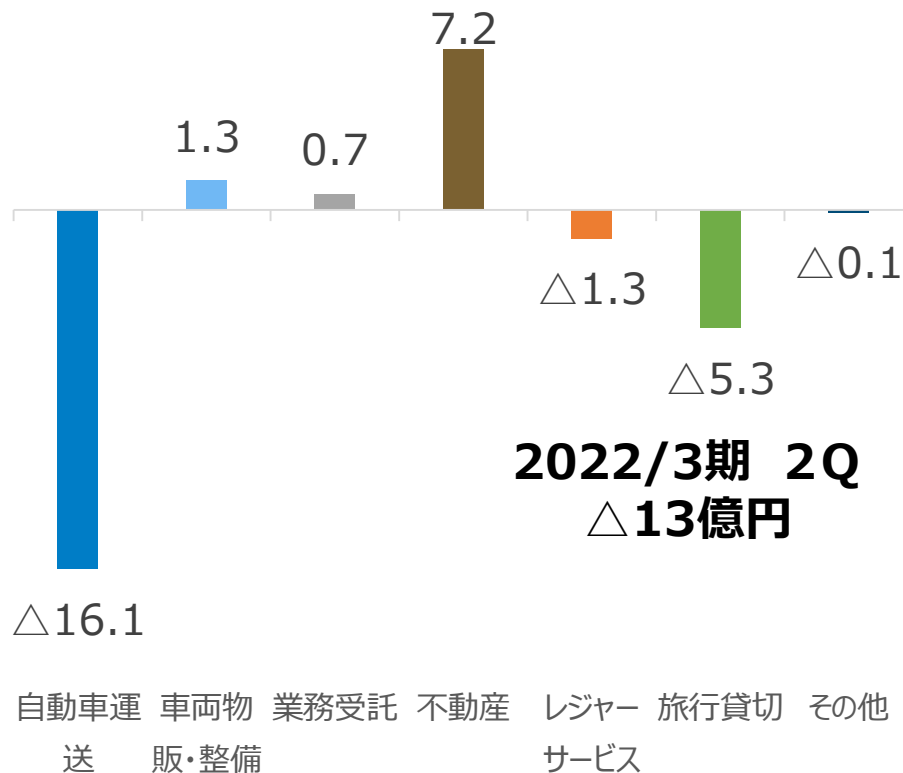
売上高構成比



2022/3期 2Q  
169億円

自動車運送関連事業

営業利益（単位：億円）



2022/3期 2Q  
△13億円



## 自動車運送

- ・乗合バスの輸送人員は**10.6%**増
- ・乗合バスの実車キロは**3.0%**減



## 車両物販・整備

- ・車検台数は**8.8%**増
- ・車両部品出荷額は**4.1%**増



## 業務受託

- ・受託管理施設利用者数は**23.4%**増
- ・車両管理収入は**3.9%**増



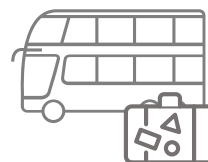
## 不動産

- ・賃貸料収入は**0.6%**増
- ・リフォーム件数は**2.1%**増



## レジャーサービス

- ・TSUTAYA店舗売上は**9.1%**減
- ・サービスエリア3店舗の客数は**11.0%**減
- ・FC・レストランの客数は**12.4%**減



## 旅行貸切

- ・貸切バス稼働数は**57.1%**増
- ・国内バスツアー集客数は**9.4%**減

※増減は前年との比較



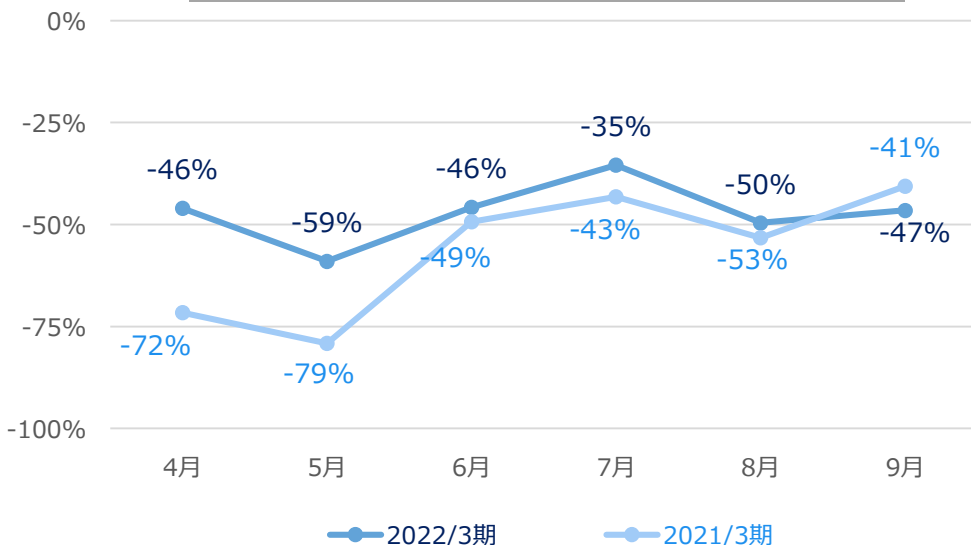
■ 高速バス・路線バスとも、1Qは1回目の緊急事態宣言が発出された前年4～5月の反動により増収となったが、2Qは“第5波”の影響により利用人員が回復せず微減。

■ 営業利益は、需要バランスを勘案した減便およびコスト削減効果で、赤字幅が大きく縮小。

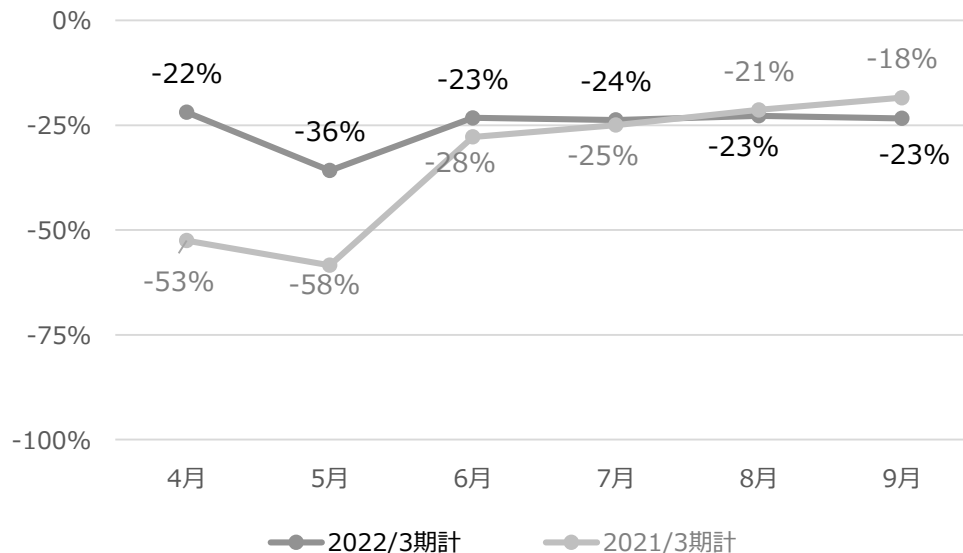
(百万円)	※2020/3期				※2021/3期				2022/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	4,772	4,955	4,945	5,749	2,768	3,612	4,041	5,372	3,379	3,616
営業利益	△265	△159	△268	854	△1,755	△1,117	△564	923	△875	△741

※当期より、索道業を「自動車運送」から「業務受託」へセグメント変更しており、2020/3期・2021/3期の数値も変更後で表示

高速バス 利用人員対比  
(対2020年3月期実績)



路線バス ICカード利用人員対比  
(対2020年3月期実績)



- 賃貸事業はコロナ禍による解約や賃料値下げがあったものの、'20/8に取得した賃貸マンション「ラウロ豊里」の寄与により増収
- 住宅販売の販売戸数では、販売戸数が建売住宅+1棟、注文住宅△5棟となり減収
- 建設工事業では、こども園舎2棟引き渡しがあり、大きく増収

(百万円)	2020/3期				2021/3期				2022/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	913	1,095	1,162	1,132	744	948	993	1,313	877	1,016
営業利益	338	449	382	303	320	354	351	454	348	371



ラウロ豊里（'20/8取得）



建築物件（姫路市 幼保連携型認定こども園）

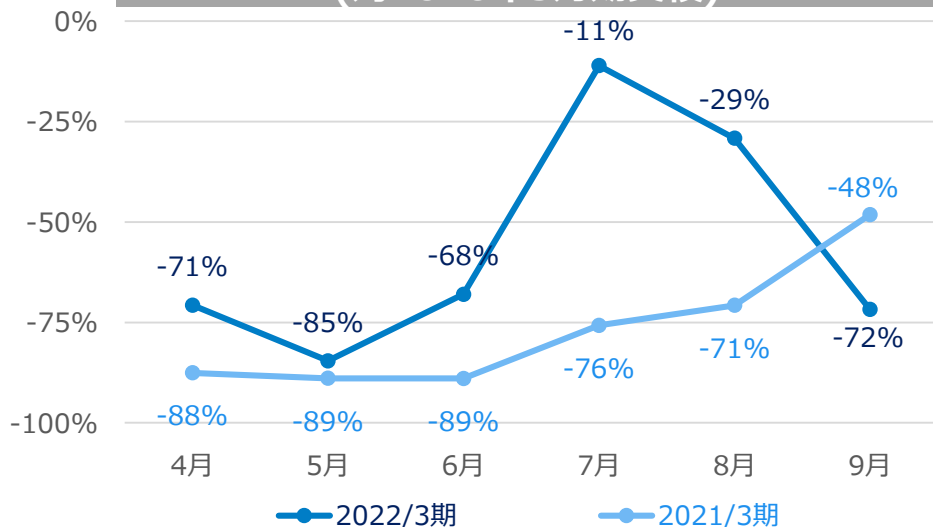
セグメント全体では、継続的な出控えが影響し、コロナ禍前と比べ低調に推移

貸切バスでは、東京五輪の輸送やワクチン接種会場への送迎により稼働数が回復するも、  
収支改善としては限定的

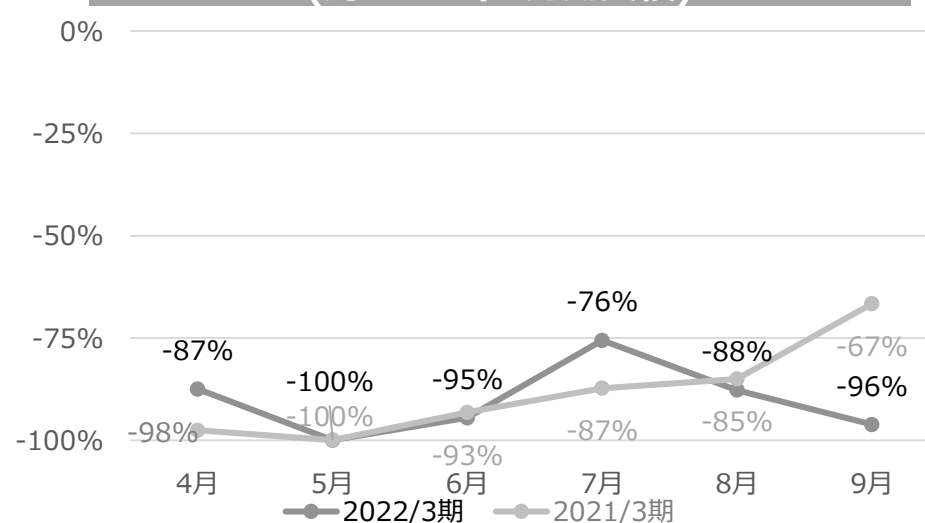
(百万円)	2020/3期				2021/3期				2022/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,100	950	1,219	691	66	295	700	289	297	548
営業利益	△6	△111	87	△347	△582	△406	△112	△343	△325	△214

「収益認識に関する会計基準」等を当期より適用しており、売上高及び売上原価において、従来の「純額表示」から「総額表示」に表示方法を変更している（2020/3期・2021/3期は変更前の数値で表記）

貸切バス 稼働数対比  
(対2020年3月期実績)

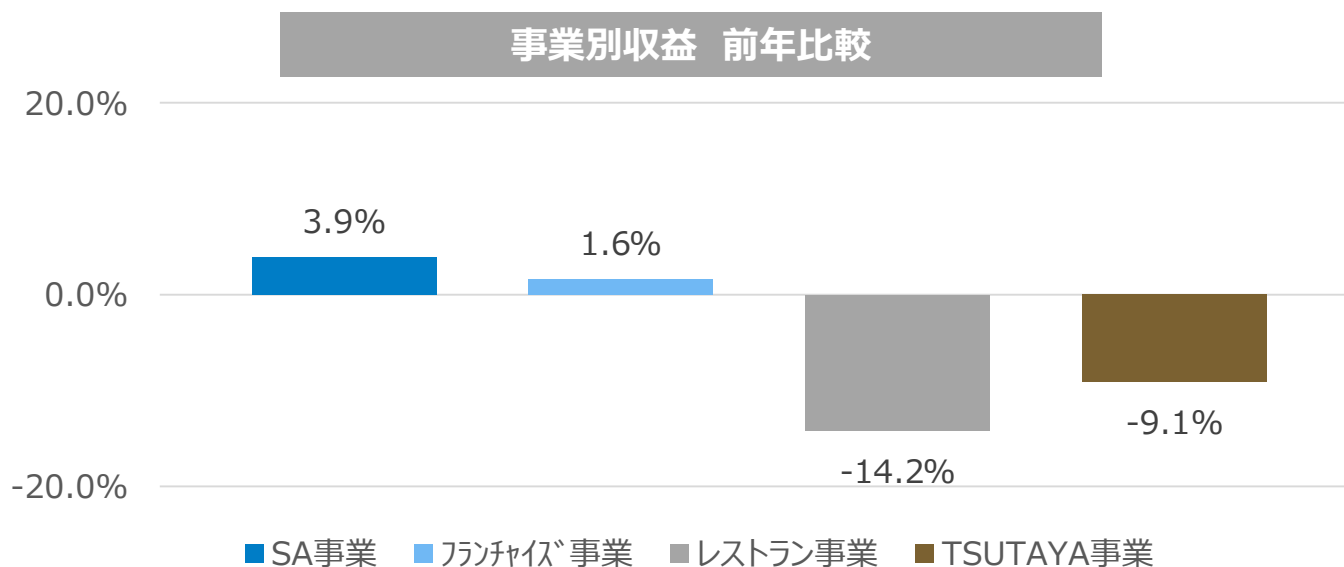


自社主催国内ツアー 参加者数対比  
(対2020年3月期実績)



- サービスエリア事業は、客数は減少したが客単価がアップしたことで増収
- レストラン事業は、酒類提供や営業時間の制約、2店舗閉店により大きく減収
- TSUTAYA事業は、前年の巣ごもり・大ヒット漫画特需の反動により減収

(百万円)	2020/3期				2021/3期				2022/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,388	1,507	1,425	1,246	820	1,068	1,096	931	843	941
営業利益	11	40	32	△39	△154	△54	△24	△89	△70	△65



## 前事業年度に借入金を積み増しているものの、自己資本比率は72.8%と財務安定性は維持

(単位：百万円)	2021年3月末	2021年9月末	前期末比
<b>流動資産</b>	13,159	<b>11,481</b>	△1,678
現預金	5,940	<b>6,411</b>	+470
売掛金	4,968	<b>2,980</b>	△1,987
その他	2,250	<b>2,089</b>	△161
<b>固定資産</b>	43,982	<b>43,431</b>	△551
有形固定資産	36,702	<b>36,097</b>	△605
その他	7,280	<b>7,334</b>	+54
<b>資産合計</b>	57,142	<b>54,913</b>	△2,229
<b>負債</b>	16,071	<b>14,944</b>	△1,126
有利子負債	5,151	<b>4,652</b>	△499
未払金	2,597	<b>2,055</b>	△542
その他	8,321	<b>8,237</b>	△84
<b>純資産</b>	41,071	<b>39,968</b>	△1,103
<b>負債純資産計</b>	57,142	<b>54,913</b>	△2,229
<b>*Net Cash</b>	789	<b>1,759</b>	+969

主な売掛金内訳  
 ✓ 未収補助金の減少(△14.4億円)

主な有形固定資産内訳  
 ✓ 乗合2車庫建屋建設(+2.5億円)  
 ✓ 償却減損による減(△12.1億円)

主な有利子負債内訳  
 ✓ 長期借入金返済(△3.1億円)  
 ✓ リース債務減少(△1.8億円)

主な未払金  
 ✓ 工事代金減少(△2.6億円)

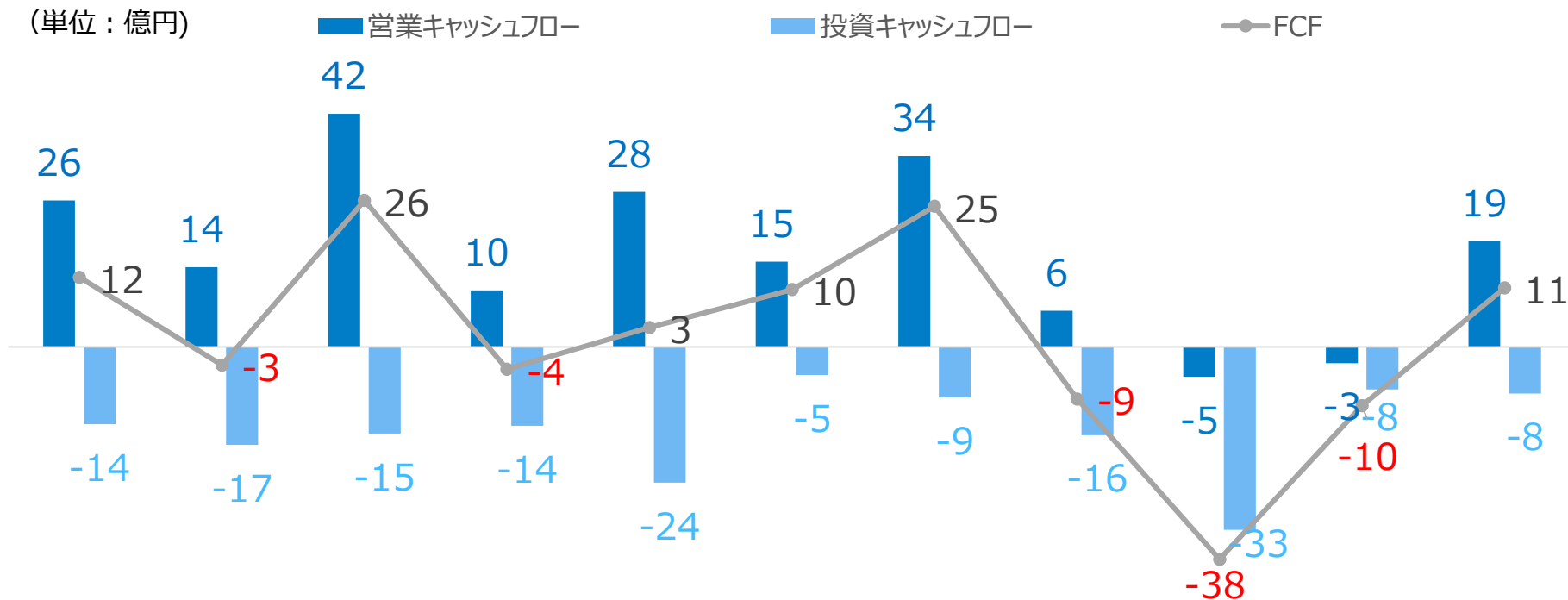
自己資本比率72.8%

\*Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

■ 営業CFはコロナ禍により厳しい業績が続いているものの、前年に比べ赤字幅が縮小したため黒字化。また、設備投資についても抑制に努めたため、FCFも黒字に転換。

### キャッシュフロー推移

(単位：億円)



2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3
上期	下期	上期	下期	上期	下期
上期	下期	上期	下期	上期	下期

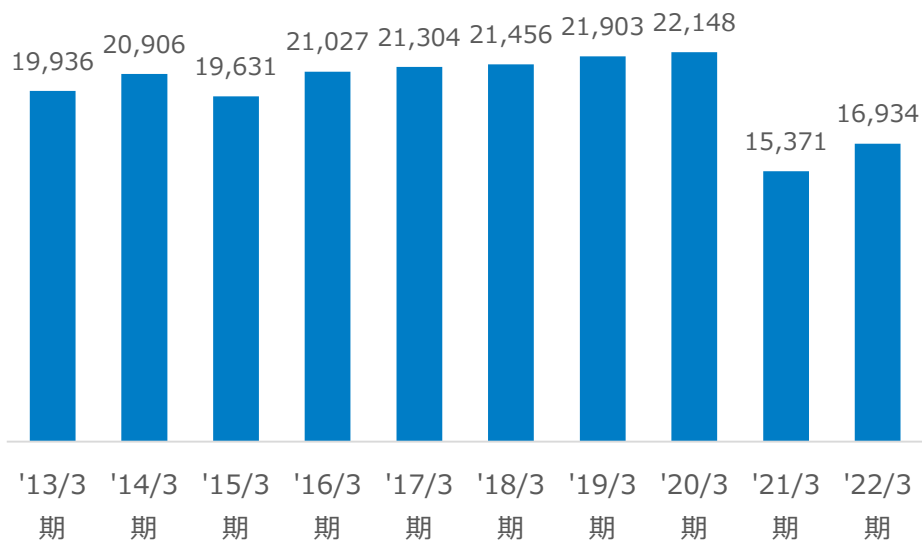
\*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

2020/3期までは売上高を順調に伸ばしていたが、コロナ禍の影響を受け大きく減収。

2020/3期までは事業拡大への人員確保などが費用増として影響。2021/3期はコロナ禍により赤字、2022/3期も赤字となったが赤字幅は大きく改善

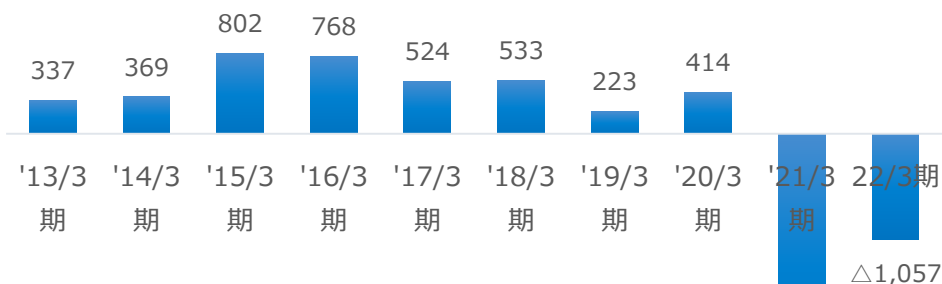
### 売上高（第2四半期）

(百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益（第2四半期）

(百万円)



△2,601

14



## 2022年3月期 業績予想



# 2022年3月期 業績予想

■ 上期は、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施により、想定以上に影響が長引いたが、ワクチン接種の進捗や感染者数の減少を踏まえ、移動需要が徐々に回復するものと想定

■ 当期純利益の大きな増益は、当社神姫ビルおよび合同ビルの土地・建物の売却益（特別利益約27億円）によるもの（詳細は20ページを参照）

(百万円)	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想 (11/12開示)	対前年比	
				増減額	増減率
売上高	45,076	35,669	<b>39,100</b>	3,431	9.6%
営業利益	2,043	△2,266	<b>410</b>	2,676	-
経常利益	2,224	△1,314	<b>1,070</b>	2,384	-
経常利益率	4.9%	-	<b>2.7%</b>	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	993	△2,167	<b>2,250</b>	4,417	-
※ROA	3.9%	-		-	-

※ROA=経常利益/期中平均総資産

# 2022年3月期 半期別業績見通し

半期ベースでは、例年の季節要因からも下期に黒字を想定。また、事業全体の回復基調を想定し、増収を見込む

(百万円)	2021/3期		2022/3期			
	上期	下期	上期	下期見通し	Y/Y増減額	H/H増減額
売上高	15,371	20,298	16,934	<b>22,166</b>	<b>1,868</b>	<b>5,232</b>
営業利益	△3,114	848	△1,384	<b>1,794</b>	<b>946</b>	<b>3,178</b>
経常利益	△2,706	1,392	△1,035	<b>2,105</b>	<b>713</b>	<b>3,140</b>
経常利益率	-	6.8%	-	<b>9.5%</b>	<b>+2.7p</b>	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△2,601	434	△1,057	<b>3,307</b>	<b>2,873</b>	<b>4,364</b>
※ROA	-	1.5%	-			-

※ROA=年率換算経常利益/期末総資産

# 2022年3月期 業績予想 (セグメント別)

(百万円)	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想	対前年比	
				増減額	増減率
売上高	45,076	35,669	<b>39,100</b>	3,431	9.6%
自動車運送	20,575	15,793	<b>16,800</b>	1,007	6.4%
車両物販・整備	6,223	6,184	<b>6,500</b>	316	5.1%
業務受託	2,988	3,060	<b>3,200</b>	140	4.6%
不動産	4,304	3,999	<b>4,300</b>	301	7.5%
レジャーサービス	5,568	3,917	<b>3,800</b>	△117	△3.0%
旅行貸切	3,962	1,352	<b>※3,000</b>	1,648	121.9%
その他	1,455	1,361	<b>1,500</b>	139	10.2%
営業利益	2,043	△2,266	<b>410</b>	2,676	-
自動車運送	170	△2,514	<b>△780</b>	1,734	-
車両物販・整備	508	421	<b>390</b>	△31	△7.4%
業務受託	245	204	<b>160</b>	△44	△21.6%
不動産	1,475	1,480	<b>1,510</b>	30	2.0%
レジャーサービス	45	△323	<b>△180</b>	143	-
旅行貸切	△377	△1,445	<b>△630</b>	815	-
その他	△4	△56	<b>△20</b>	36	-
(セグメント間取引消去)	△20	△33	<b>△40</b>	△7	-

※収益認識会計基準の適用による増収を含む



## 自動車運送

- 路線バス  
感染者数減少による移動需要の回復や  
大学の対面授業再開により利用者数持ち直し
- 高速バス  
長距離移動の回復は鈍いと想定
- 全般  
原油高騰による経費増(期首より単価15%↑)



## 車両物販・整備

- ・神戸工場移転による一般車検の増強
- ・自動車部品は前年からの反動により整備  
需要が増加すると想定



## 不動産

- ・分譲土地の販売強化
- ・建物管理の新規契約強化



## 業務受託

- ・感染者数減少による施設利用者の回復



## 旅行貸切

- ・訪日客数は皆無と予想
- ・学生団体は需要回復
- ・国内バスツアーも回復すると見込む



## レジャーサービス

- ・感染者数減少による飲食店利用者の回復
- ・SA店前通行量の回復による店舗利用者増
- ・書籍販売は前年のような特需がなく減収想定

## 固定資産の譲渡

当社が所有する以下の建物および土地を山陽電気鉄道株式会社へ2022/3期内に売却

- ・当社本社が所在する「神姫ビル」
- ・「神姫ビル」と接続した「合同ビル」のうち当社所有分（83%の所有権 残りは山陽電気鉄道）

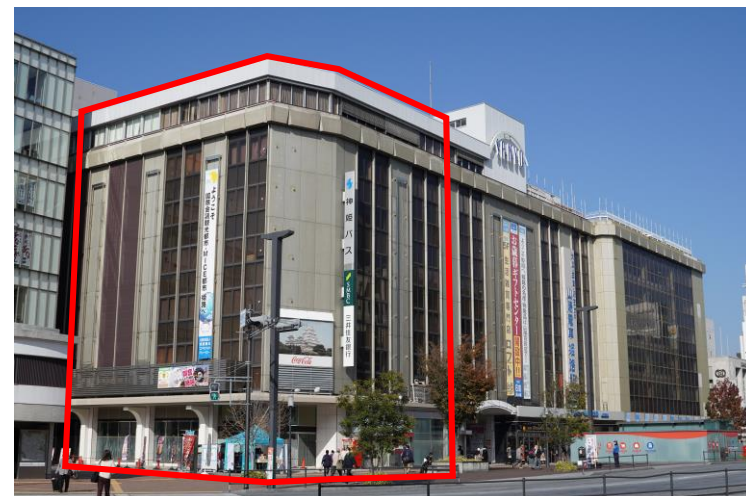
### 【売却理由】

- ①「神姫ビル」は築65年が経過（大規模修繕や耐震補強が必要）
- ②「神姫ビル」「合同ビル」と接続して山陽百貨店所有のビルがあり、土地・建物の所有区分が複雑化し、大規模修繕や耐震補強を当社単独で行うことが困難
- ③大規模修繕や耐震補強分の投資に見合う収益確保が困難



山陽電気鉄道より購入打診があり、  
2物件の売却を決定

項目	内容
土地・建物	土地 577.58坪 建物3,741.41坪
売却先・時期	山陽電気鉄道株式会社 2022年3月
売却益	約2,700百万円（特別利益に計上）



神姫ビル（2021年11月撮影）赤枠内

※本社事務所は、売却後も当面の間は山陽電気鉄道との賃貸契約を締結予定

※売却による資金は、新たな不動産物件や事業買収等の投資に活用



## 株主還元方針

2021/3期は赤字となり、先行き不透明な状況下、中間は手元流動性を確保するため配当を見送り、期末は長期安定配当という方針のもと、1株当たり17.50円を配当

2022/3期も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないものの、回復基調にあると判断し、長期安定配当という基本方針に基づき、年間35.00円を配当予定

## 配当状況

(円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	前年差異
1株当たり当期純利益	262.17	290.55	164.99	△359.94	<b>373.65</b>	733.59
1株当たり配当金	35.00	35.00	35.00	17.50	<b>35.00</b>	17.50
※配当性向	13.4%	12.0%	21.2%	—	<b>9.4%</b>	—

※配当性向 = 配当金の支払い額 / 当期純利益



## 参考資料



## 企業理念

地域共栄 未来創成

## ビジョン

積み重ねてきたことと  
私たちの成長のすべてを、  
地域・社会に活かす。  
未来につなげる。

## 「誠実に、果敢に、おもしろく」

### 誠実に

関わる人すべてを思いやり、責任を持って、やり遂げる。

一人ひとりが頼られる存在になるように、お客様、地域、取引先、株主のみなさま、社員など…関わる人すべてを思いやるのが私たちの要。積み上げてきた実績や伝統から真摯に学び、関わる人すべてに責任を持って、やり遂げることから新たな伝統が生まれます。

### 果敢に

変化や失敗を恐れずに、粘り強く挑戦し続ける。

変化や失敗を恐れることなく、現状に満足しないで粘り強く挑戦し続ける姿勢。知識や経験を活かし、型にはまらず、勇気ある行動を積み重ねていくことが成果や成功につながります。

### おもしろく

自らの意志を持って、全力で仕事を楽しむ。

自らの意志を持って仕事に一生懸命取り組めば、私たち自身も、会社も、地域・社会も、未来も、もっとおもしろくなるはず。全力で、臨機応変に仕事を楽しめるかどうか、これからの成長の鍵となります。

- 1927/08 神姫自動車株式会社誕生（資本金 20 万円）
- 1949/06 菱油商事が神姫産業株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 1952/06 赤穂合同自動車株式会社が神姫自動車株式会社神戸タクシー部を吸収合併し、神姫タクシー株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 1961/10 大阪証券取引所へ上場（市場第二部）
- 1969/03 逓送部門を分離し、神姫逓送株式会社（現・連結子会社）を設立
- 1970/09 シンキ興業株式会社（現・連結子会社神姫フードサービス株式会社）を設立し、飲食業を開始
- 1970/04 車両部門（板金・塗装等）を分離し、完全自動車整備塗装株式会社（現・連結子会社神姫商工株式会社）を設立
- 1972/05 神姫バス株式会社に商号変更、事業年度を1年（3月末日）に変更
- 1982/12 神姫観光株式会社の旅行業以外の事業を分離し、神姫商産株式会社（現・連結子会社神姫クリエイト株式会社）を設立し、1983年4月乗車券発売・広告・保険代理業等を開始
- 1984/01 株式会社ホープ（現・連結子会社神姫トラストホープ株式会社）を設立し、自動車の車両運行管理業を開始
- 1997/11 神姫観光バス株式会社（連結子会社）を設立し、1998年8月貸切旅客運送事業の運行部門の第一次営業譲渡を行い貸切旅行事業を開業
- 2006/01 株式会社ハウジング幸陽を買収（連結子会社株式会社エルテオに商号変更）
- 2012/03 神姫バスツアーズ株式会社（連結子会社）を設立
- 2012/04 神姫観光ホールディングス株式会社（連結子会社）を設立
- 2012/07 吸収分割により旅行事業を神姫バスツアーズ株式会社に移管更に、吸収分割により神姫バスツアーズ株式会社及び神姫観光バス株式会社の株式を神姫観光ホールディングス株式会社に承継させ、旅行事業及び貸切バス事業の経営を管理する中間持株会社体制を構築
- 2013/07 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所（市場第二部）に上場
- 2016/10 タイ・バンコクにShinki International Co.,Ltd.（現・非連結子会社）を設立
- 2017/01 神姫産業株式会社が株式会社大陽商會を吸収合併
- 2018/04 東京オフィス開設
- 2019/03 Shinki International Co.,Ltd.がHeisei Enterprise Thailand Co.,Ltd.を買収し、Thai Cross Japan Tour Co.,Ltd.（現・非連結子会社）に商号変更
- 2019/10 株式会社エルテオが神姫バスオール株式会社を吸収合併し、神姫バス不動産株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 2020/02 株式会社ケアサービス神姫（現・連結子会社）を設立し、介護事業を分社独立化
- 2020/05 神姫観光バス株式会社が神姫観光ホールディングス株式会社、神姫バスツアーズ株式会社を吸収合併し、神姫観光株式会社に商号変更
- 2021/01 神姫フードサービス株式会社が株式会社神戸（神姫フードサービスの子会社）を吸収合併

# 財務ハイライト（連結経営指標の推移）

決算年月	単位	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高	(百万円)	44,522	44,562	45,889	45,076	35,669
経常利益	(百万円)	3,027	2,821	2,567	2,224	△1,314
当期純利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	1,991	1,579	1,749	993	△2,167
包括利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	2,099	1,692	1,039	455	△1,983
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	3,140
発行済株式総数	(千株)	30,860	6,172	6,172	6,172	6,172
純資産額	(百万円)	40,614	42,102	42,915	43,161	41,071
総資産額	(百万円)	55,585	57,371	56,638	56,287	57,142
1株当たり純資産額	(円)	6,737.43	6,986.55	7,121.77	7,162.92	6,816.37
1株当たり配当額	(円)	6.00	35.00	35.00	35.00	17.50
1株当たり当期純利益額	(円)	330.54	262.17	290.55	164.99	△359.94
自己資本比率	(%)	73.02	73.34	75.73	76.63	71.83
自己資本利益率	(%)	5.03	3.82	4.12	2.31	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,048	5,177	4,299	4,059	△815
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△3,124	△2,954	△2,926	△2,473	△4,022
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,197	△1,037	△775	△555	3,409
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,429	5,615	6,212	7,244	5,815
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	3,280 [1,728]	3,207 [1,748]	3,281 [1,789]	3,293 [1,758]	3,158 [1,569]

※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益額を算定しています。

## < 見通しに関する注意事項 >

---

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
総務部 秘書広報課  
079-223-1241 (代表)  
ir@shinkibus.co.jp